教室の窓 道徳版・機関誌

どうとくのわ

第7号
2022年秋号

［特集］
あなたのおすすめの道徳教材は入っていますか？

『D-1グランプリ』結果発表

東京書籍

この機関誌は，一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則っています。

東京書籍

本社　〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1　Tel：03-5390-7362（道徳編集部）　Fax：03-5390-6014
支社・出張所　札幌 011-562-5721　仙台 022-297-2666　東京 03-5390-7467　金沢 076-222-7581　名古屋 052-939-2722
大阪 06-6397-1350　広島 082-568-2577　福岡 092-771-1536　鹿児島 099-213-1770　那覇 098-834-8084
ホームページ　https://www.tokyo-shoseki.co.jp/　教育資料データベース 東書Eネット　https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/

令和4年10月発行 Copyright©2022 by Tokyo Shoseki Co., Ltd., Tokyo　All rights reserved. Printed in Japan

A4798

CONTENTS

［どうとくのわ］2022年秋号

巻頭言 3
これからの道徳教育
国立教育政策研究所総括研究官　西野 真由美

特集 4
あなたのおすすめの道徳教材は入っていますか？
『D－1グランプリ』結果発表
小学校編／中学校編

実践1 小学校 8
「はしのうえのおおかみ」の授業実践
元 東京都板橋区立板橋第八小学校校長　馬場 喜久雄

実践2 小学校 10
「ブランコ乗りとピエロ」の授業実践
和歌山県和歌山市立岡崎小学校教諭　豊田 麗香

実践1 中学校 12
教員が道徳的価値と真剣に向き合う
～「二通の手紙」の授業実践～
北海道標茶町立標茶中学校教諭　岩渕 哲

実践2 中学校 14
「家族愛」に関する教材の扱いの難しさと大切さ
～「一冊のノート」の授業実践～
高知県高知市立南海中学校教諭　井上 美智子

編　　集：東京書籍 編集局 道徳編集部
編集協力：株式会社エディット
デザイン：クオルデザイン（坂本真一郎）
イラスト：サカモトアキコ

これからの道徳教育

「特別の教科　道徳」（道徳科）が先行実施されてから、小学校では5年目、中学校では4年目を迎えました。「考え、議論する道徳」への転換を目指して新たなスタートを切ったとはいえ、この間に私たちが経験したのは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大下での全国一斉休校、新しい生活様式の中での「学びの保障」の取り組み、感染予防対策に対応して加速したGIGAスクール構想の推進による「1人1台端末」の活用と、まさに、予測できない時代を実感させる困難な日々でした。

この体験は、学校が子どもたちの大切な居場所であること、その居場所がチーム学校の協働で支えられていることを教えてくれる機会にもなりました。子どもの心のケアが求められ、学校が安心・安全な居場所とならなければならないこの困難な時代に呼応するように、道徳の学びの見直しが進められてきたことには大きな意義があるといえるでしょう。未曾有の事態の中で子どもたちを守り、学びの保障に献身的に取り組んでこられた教職員の皆様に心から敬意を表します。

本年4月、文部科学省から「令和3年度道徳教育実施状況調査」（2021年10月～12月実施）の結果が公表されました。道徳科の全面実施後では初の小・中学校を対象とした全国規模の調査です。同調査では、「道徳科の授業を実施する上での課題」（複数回答）として、小・中学校ともに過半数の学校が、「話し合いや議論を通じて、考えを深めるための指導」、「物事を多面的・多角的に考えるための指導」、「教材の吟味や授業構想のための時間の確保」を挙げています。

改訂の柱である多面的・多角的な思考や豊かな議論の実現には、取り組むべき課題が多いことが示唆されています。ただこれらの回答は、子どもが主体的・対話的に学ぶ授業の意義やそのための教材活用の大切さが広く共有されるようになっていることを示すものでもあります。

目に見える変化もあります。例えば、教科書には、話し合いを充実するさまざまな手立てやツール、「子ども哲学」のような探究的学習も盛り込まれるようになりました。環境や人権などSDGsに代表される現代的な諸課題や多様な生き方に開かれた教材も充実してきています。新しい時代を創造する担い手を育む道徳教育への歩みは、着実に進んでいるのです。

中央教育審議会答申『「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（2021年）では、コロナ禍の経験を踏まえて学校教育で実現すべき学びが提起されました。ここで道徳教育が見据えなければならないのは、同答申が理念として掲げる「多様性と包摂性のある社会」です。

この理念は、一人一人の子どもが、それぞれ多様な自分らしい生き方を社会の中で見出していくことで実現されます。子どもたち一人一人が、自分の生き方を創造していける道徳教育への歩みを進めていきましょう。

プロフィール
国立教育政策研究所総括研究官
西野真由美（にしの まゆみ）
1961年富山県生まれ。専門は道徳教育・特別活動。共著書に、『特別の教科道徳Q&A』（ミネルヴァ書房）、『「考え、議論する道徳」の指導法と評価』（教育出版）など。

あなたのおすすめの道徳教材は入っていますか？

D-1グランプリ
―結果発表―

全国の先生がたに最も愛されている道徳教材を選出する『D-1グランプリ』を開催！
投票結果を教材についてのコメントとともにご紹介します！
小学校編の栄えある1位に選ばれたのは……。

小学校編

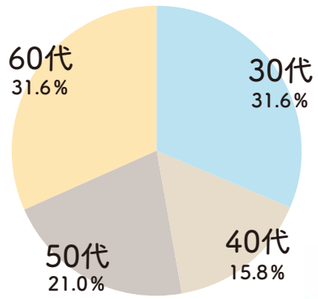
小学校編 1位 「手品師」

葛藤を考えるのに、六年生では好教材。互いの意見を出し合うのが、楽しい。

手品師が葛藤したのと同じように子どもたちも葛藤し、対話が盛り上がった。

授業参観で保護者にも一緒に考えてもらったが、大人である我々も悩むくらい、考えさせられる教材である。

●「手品師」を選んだ年齢層



幅広い世代から親しまれ、1位に選ばれました！

道徳編集委員より

１位はやはり、あの「手品師」です。江橋照雄先生作の名作中の名作といわれる教材です。手品師の生き方を通して、人間としての誠実さを深く考えさせられる教材です。また、さまざまな意味で議論を呼び起こす教材でもあり、道徳教材の中で最も注目を集める作品の一つでもあります。

２位の「はしのうえのおおかみ」は、「かぼちゃのつる」「二わのことり」とともに、小学校低学年では定番中の定番教材です。くまに親切にされたおおかみに自我関与させることを通して、親切にしてもらううれしさ、さらには、親切にする喜びについても考えさせたい教材です。よく、先生がくま役になって、おおかみ役の児童をだっこして渡す授業場面が見られますが、後に、おおかみがどんな気持ちからうさぎを渡してあげたのかにも注目したいところです。

３位は、「銀のしょく台」「花さき山」をおさえて「ブランコ乗りとピエロ」になりました。ブランコ乗りのサムの、一見、自己中心的な主張に対して、正面から向き合い本音で語るピエロの姿から、相互理解、謙虚さ、異なる相手を尊重する心などを深く考えることのできる教材です。高学年児童にとっては、さらに自身の人間関係に広げて考えることのできる教材でもあります。

宇都宮大学教授
和井内（わいない） 良樹（よしき）

小学校編 2位 「はしのうえのおおかみ」

おおかみが変容した理由を考えることでねらいに迫れる教材である。

初めて役割演技を取り入れた教材。

低学年の時期に、思いやりの大切さを考えることはその後の生き方の基盤となる。

中学生を相手に指導しましたが、シンプルな内容である反面、中学生らしくきれいごとで済まさない意見交流に発展し、そのギャップがおもしろかった。

「はしのうえのおおかみ」は中学校の教科書にも掲載されています！

小学校編 3位 「ブランコ乗りとピエロ」

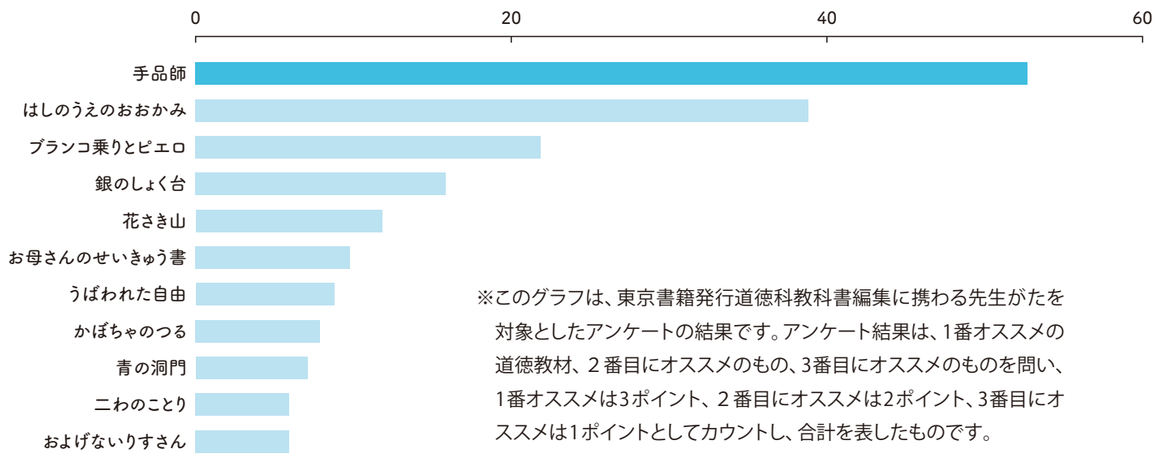
広い心をもつために大切なことについて多面的に考えさせられる教材。

高学年に考えさせたい内容がたくさん詰まった教材である。

学級で本音をぶつけ合って親友になった児童がおり、相互理解の大切さについて考えさせられた教材だった。

不朽の定番教材が多くの票を集めました！

アンケート結果（小学校編）



※このグラフは、東京書籍発行道徳科教科書編集に携わる先生がたを対象としたアンケートの結果です。アンケート結果は、1番オススメの道徳教材、２番目にオススメのもの、3番目にオススメのものを問い、1番オススメは3ポイント、２番目にオススメは2ポイント、3番目にオススメは1ポイントとしてカウントし、合計を表したものです。

中学校編

中学校編 1位「二通の手紙」

遵法の精神を思いやりとの葛藤で考えさせる実に温かくも厳しい教材であり、中学生の思考がフル回転する。

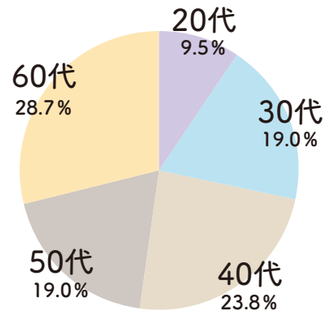
思いやりや責任について考えさせられる。

主人公の行動を通して、生徒も葛藤の中、しっかり考えを深める。

批判もあるが、さまざまな価値が含まれ、何度やってもおもしろい。ただ、うまくいった、と思える授業には、なかなか1時間ではならない。

「二通の手紙」も幅広い年齢層に支持されています！

●「二通の手紙」を選んだ年齢層



中学校編 2位「銀色のシャープペンシル」

誰もが想像しやすく、考えさせられる教材。

主人公の葛藤場面で人としてどうあるべきかについて深く考えることができる。

円チャートを使って主人公の心の中にどんな思いがあるか考えた。

人間の弱さの部分にも目を向けやすく、きれいごとだけではない「生」の考えを交流することができる良い教材だと感じる。

葛藤を生む定番教材が多くの先生に支持されています！

中学校編 3位「杉原千畝」

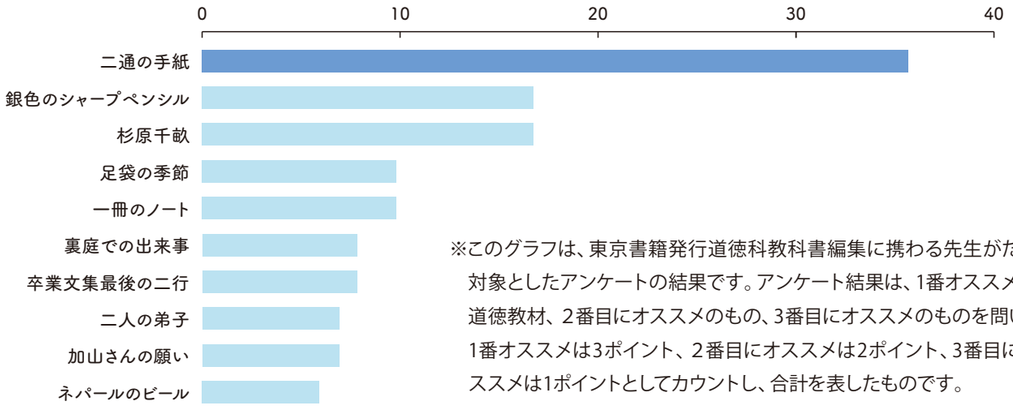
人として大切なことを考えさせることができる。

自分ならどうする？ の問いに対し生徒は悩み抜いていた。

国際社会に貢献している日本人に目を向けさせたい。

教科書では、コラムを設け、杉原千畝の歴史を深掘りできます！

アンケート結果（中学校編）



※このグラフは、東京書籍発行道徳科教科書編集に携わる先生がたを対象としたアンケートの結果です。アンケート結果は、1番オススメの道徳教材、2番目にオススメのもの、3番目にオススメのものを問い、1番オススメは3ポイント、2番目にオススメは2ポイント、3番目にオススメは1ポイントとしてカウントし、合計を表したものです。

道徳編集委員より

1位は、ダントツ「二通の手紙」です。白木みどり先生の秀作、定番教材です。内容項目「遵法精神、公徳心」には、遵法精神、権利・義務、公徳心といった、3つのタイプの価値があり、「二通の手紙」は遵法精神を扱う教材です。厳密な規則の尊重の前では、幼い姉弟を思う元さんの情が入り込む隙間はありません。懲戒処分の通告を受け自ら職を辞し、動物園を去った元さん。何とも切ないエンディングですが、生徒の心に深く訴えかける教材です。

2位以下は、「銀色のシャープペンシル」「杉原千畝」「足袋の季節」「一冊のノート」…と続きます。「銀色のシャープペンシル」は、人間の心の弱さと向き合う教材です。卓也からの謝罪の電話を受け、黙っていても（あるいは黙っていたほうが）問題がない局面で、自分の心の声を聞きながらずるさと向き合う主人公の「ぼく」。悩ましいですが、中学生らしい葛藤が描かれています。「杉原千畝」は、外交官として命令か人道かで苦悩した末の杉原の決断や行動を通して、世界平和や国際貢献について考えさせられる教材です。今、まさに戦争や平和問題がリアルに問われている最中、生徒が自分たち自身の問題として考えるための教材といえます。

宇都宮大学教授
和井内（わいない） 良樹（よしき）

小学校
―実践1―

「はしのうえのおおかみ」の授業実践

元東京都板橋区立
板橋第八小学校
校長
馬場（ばば） 喜久雄（きくお）

1 実践の概要

内容項目「親切、思いやり」は、Bの柱「主として人との関わりに関すること」の中の重要な項目といっていいでしょう。それは、友情や家族愛などいろいろな内容項目と関わっているからです。

しかし、子どもたちに親切の経験を聞くと、「席を譲った。」とか、「重い荷物を持ってあげた。」とか、「忘れ物をした友達を助けてあげた。」とか、決まったものが多いです。それでは、発達の段階を考えたり、学級の実態を考えたりしたことにはならず、学びの積み重ねなど、深い学びにつながりません。

そこで本実践では、教材「はしのうえのおおかみ」を活用して、一年生の実態に合った深い学びを考えていきました。

まずは、導入と展開後段のつながりを考えました。導入では、親切にしてもらえた経験を話し、展開後段では、親切にした経験を出させます。

また、この教材は、提示の仕方も工夫し、主人公に自我関与させやすくすることも大切です。

さらに、動作化を用いて、自分事として多様な考えを出させ、話し合いをしっかりと行いました。

「はしのうえのおおかみ」は、中心発問をどこに置くかによって、子どもたちに何をどう考えさせるか、多様な展開が可能な教材です。

くまがおおかみを抱っこして渡してあげる場面。くまの後ろ姿を見送るおおかみの場面、次の日、うさぎを抱っこして渡らせるおおかみの場面。いろいろ工夫できる教材ですので、しっかりと子どもたちの実態を踏まえ、指導の意図を明確にして、教材を活用していくことが大切であると考えます。

そして、ねらいに合った発問をしていくことで、「親切、思いやり」という内容項目について、自己を見つめ、考えていくことができたと思います。

2 動作化を活用して

本実践では、おおかみがくまと会い、どうぞと譲ろうとしたところ、くまがこうすればいいんだよと、おおかみを抱き上げて渡してあげる場面で動作化を行いました。いっそう臨場感が出るように、橋に見立てて低い平均台を用意し、その上で、動作化を行いました。教師がくま役、子どもたちがおおかみ役です。役割演技と違って、動作化ですので、セリフは決まっています。おおかみ役の子が、「わたしがもどります。」と言ってから、くま役の教師が「ほら、こうすればいいのさ。」と抱き上げて反対のところに下ろします。その後おおかみ役の子どもに「どんな気持ちでしたか。」と聞きます。時間の関係もあるので、3、4人がいいと思います。適宜、役割演技のときと同じように、見ていた子どもたちにも、「見ていてどうでしたか。」と聞きます。

その後、出てきた子どもたちの反応を分類整理して板書し、それをもとに話し合いました。

●**主題名**：だれにもやさしく
●**教材名**：「はしのうえのおおかみ」
（「新訂あたらしいどうとく１」東京書籍）
●**内容項目**：B-（6）　親切、思いやり
●**ねらい**：身近にいる人にやさしくすると、された人もした人もよい気持ちになることを感じ取らせ、親切にしようとする態度を育てる。

学習活動　主な発問（●）予想される児童の反応（・）

導入

1 今まで、誰かにやさしくされたことがあるか、発表する。

● 今まで誰かにやさしくされたことがあるか。
・校庭でけがをしたとき、６年生が、保健室に連れて行ってくれた。
・忘れ物をしたとき、友達が貸してくれた。

展開

2 教材「はしのうえのおおかみ」を読んで、話し合う。

1 うさぎやきつね、たぬきに「帰れ」と言ったときのおおかみは、どんな気持ちか。
・気持ちいいな。・すっきりした。
・またやろう。

2 くまに抱かれて、橋を渡らせてもらったおおかみは、どんな気持ちか。（動作化）
・えっ、どうして。
・くまさんてやさしいな。
・気持ちいいな。

3 くまを見送るおおかみは、どんなことを考えていたか。（中心発問）
・やさしいっていいな。
・うさぎさんたちに悪いことをしたな。
・今度うさぎさんに会ったら、ぼくもくまさんのようにしよう。

4 次の日、うさぎを抱いて渡らせているおおかみはどんな気持ちだったか。
・とてもいい気持ち。
・やさしくするっていいな。

3 今までの自分を振り返り、親切について考える。

● 今まで、人にやさしくしたことはあるか。
・泣いていたA君に、どうしたのと声をかけた。
・けしゴムを落としたのを拾ってあげた。

終末

4 教師の話を聞く。
親切にされてうれしかったこと、親切にしてうれしかったことの話をする。または、親切に関わる児童の作文を読む。

ポイント1 導入と展開後段をつなげる

導入では、「親切にしてもらったこと」を出させ、それを、黒板の左上に板書しました。１年生らしい意見が出るように、援助しました。

展開後段では、「親切にしたこと」を出させ、導入の板書の下に書きました。出せない子には、「してもらったんだよね。」、「誰がしてあげたんだっけ。」というような声掛けをし、自分が親切にしていることを思い出させました。

ポイント2 教材提示の工夫

本教材は、紙芝居、ペープサート、黒板シアターなど多様な方法が考えられるので、指導の意図に合ったものを選択するとよいと思います。私は紙芝居にして提示しました。

ポイント3 動作化の工夫

中心発問またはその前の基本発問で、いっそうおおかみに自我関与させることができると思い、動作化を取り入れました。

その際、より臨場感を出すために、橋に見立てて低い平均台を使いました。

ポイント4 ねらいと発問の一致

ねらいでは道徳性の様相を「態度を育てる」にしたので、発問は心情面と判断面から計画しました。発問②では、「おおかみの気持ち」を問い、中心発問③では、「おおかみが考えたこと」を問い、態度を育てるというねらいに合った発問を考えました。

ポイント5 中心発問の工夫

どこに中心をもってきて授業を進めていくかは、教師の指導の意図に関わってきます。

児童の実態をしっかりと捉えたうえで、指導の意図を明確にすることにより、多様な展開が考えられます。

それが、本教材の良さでもあり、それを利用することで、授業も楽しくなります。

②の発問を中心とした場合、動作化で自我関与させ、おおかみの気持ちをいろいろ出させ、話し合って深めていくことができます。③の発問を中心とした場合、見送るおおかみに自我関与させると、多様な反応が期待できます。④の場合は、①のときのおおかみの気持ちと、このときのおおかみの気持ちを比較させ、気持ちの良さの違いをもとに話し合わせます。また、次の日のおおかみの行動は伏せておき、次の日うさぎと会ったおおかみは、どうしただろうかと考えさせるのも盛り上がります。

なお、本実践では、③を中心発問とし、「・くまさんてやさしいな、ぼくもくまさんのようにやさしくしたい。・やさしくされると気持ちいいんだな。・うさぎさんたちに悪いことをしたな、今度会ったらぼくもくまさんのようにしよう。」というような反応が出て、自分はどれに近いかを考えさせました。

小学校
―実践2―

「ブランコ乗りとピエロ」の授業実践

和歌山県和歌山市立岡崎小学校
教諭
豊田（とよた） 麗香（れいか）

1 実践の概要

新型コロナウイルスの感染拡大や、地球温暖化にともなう気候変動や異常気象、台風や地震といった災害など予測困難なことが次々と起こるこの社会を生き抜くためには、子ども自らが課題を発見し、考え、主体的に判断して行動し、よりよく問題解決する資質・能力を身につけることが重要だと学習指導要領で示されています。それらの育成には、道徳教育が大きな役割を果たしていく必要があると思います。そこで、「道徳教育」五月号、六月号（明治図書２０２１年）の永田繁雄先生の記事や、白井俊「OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来」（ミネルヴァ書房２０２０年）などを参考にし、「学びの羅針盤」の観点を道徳科授業に取り入れて実践してみようと考えました。

活用した教材は、「ブランコ乗りとピエロ」です。対立やジレンマに対処し、そこから新しい価値を創造することについて考える授業を行いました。前半で、ピエロのジレンマを考えさせ、中盤では、ピエロの気持ちを変化させたものやピエロが気づいたことについて追究し、後半で、対立やジレンマから生み出された考えについて話し合いました。その後、自分の生活に生かしていきたいことや新たに気づいたことをまとめ、全員で共有する時間をもちました。

この教材は、予測困難な社会で生きていく私たちにとって大切なことを学ばせてくれるお話です。今後、答えが見つからない複雑な問題が、ますます増えてくるはずです。その際、自分が納得する解決策を見つけるだけではなく、多面的・多角的に捉え、他者、社会にとって、自分が出した答えが受け入れられるものなのかどうかを考えることが必要だと思います。子どもたちは、この教材の中でピエロに自我関与し、対立する考えや立場の人と、よりよい関係を築く体験ができました。授業の振り返りを見ると、88％の子どもが、対立関係にあって、うまくいかないときは、自分の考えを相手に伝えるとともに、自分と異なる意見や立場を理解することが大切だと考えていたことが分かりました。また、対立やジレンマに対処することは、よりよいものを生み出すチャンスであると58％の子どもが考えていました。このようなことにより、新たな価値に気づき、お互いが納得するような解決策を生み出す可能性が生まれるということを、授業を通して学んでくれたようです。これが、今後の日常生活の中での実践へとつながっていくことを期待しています。

今回の授業では、「対立やジレンマに対処する力」について考えてから「新たな価値を創造する力」について考えるという流れで授業をつくれることが分かりました。冒頭に述べた「学びの羅針盤」の中心概念である、「予測困難な社会で生きることを自分自身の問題と捉え、目標を設定し、実現に向けて行動する力『エージェンシー』について研究を積み重ね、子どもとともに考える授業をめざしていきたいです。

●**主題名**：広く受け入れる心
●**教材名**：「ブランコ乗りとピエロ」
●**内容項目**：B-(10)　相互理解、寛容
●**ねらい**：サーカス団の約束を守らないサムに腹を立てていたピエロが、サムの演技に対する姿勢を見て憎む気持ちが消えた理由について考えることを通して、自分の考えを相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重しようとする態度を育てる。

学習活動　主な発問（●）予想される児童の反応（・）

導入

1 人と意見が対立したとき、どうするか考える。

Google スプレッドシートでアンケートをとる。
・話し合う。
・相手が謝ってくれたら許す。
・その他

展開

2 教材「ブランコ乗りとピエロ」を読んで話し合う。

● 1 はじめのピエロと、あとのピエロの考え方には、どのような変化があるだろう。
・はじめのピエロは、サムに腹を立てている。一人だけ目立っているのが許せない。
・ブランコから引きずり下ろしたいほど腹立たしく思っていたピエロと、一緒に演技をしたいと思うようになった。

● 2 サムが頑張って演技をしている姿や演技後の疲れ切った姿を見て、どうして憎む気持ちが消えたのだろう。
（一人で考えメモを取り、グループで話し合う。）
・サムもピエロも目立ちたい気持ちがあった。サムの気持ちを認めた。サムのすごさも認めた。
・自分の実力を出した最高の演技と疲れ切った様子を見ていたら感動して、怒りがおさまってきた。
・自分よりすごいなと感心している。
・努力しているから成果が出る。

● 3 どんな考えが、このような（上記のような）気持ちを生み出したのだろう。
・サーカスのために頑張っている様子を見て、自分よりサムが頑張っていると分かった。
・ピエロはサムへの嫉妬心からサムを憎んでいただけかもしれないと気づいた。

終末

3 今後、どのようなことを大切にしていきたいかをまとめる。
・対立しても分かり合えるようにするために話し合いがあると分かった。話し合いで生み出されるものがある。

ポイント❶ 主題に対する問題意識を、子どもの日常生活につなげてもたせる。

導入では、「人と意見が対立したときどうするか」と問いかけ、これまで経験したことを想起させたいと思いました。本時の主題に対して、子どもの興味を高め、問題意識をもたせるためです。さらに、人と対立することは、子どもたちにとって、プラスのイメージかマイナスのイメージかを問いかけました。

ポイント❷ 中心発問③で対立やジレンマに対処するために、どんな力が必要なのかを考えさせる。見方、考え方、行動の変容を捉えさせる。

人と対立したとき、相手の立場に立って、多面的、多角的に考えること、問題の背景に何があるのかを考えることで見えてくるものがあるということに気づかせたいと考えました。また、見方、考え方が変化したのはなぜかを子どもたち自身が見つけられるようにしたいと思いました。問題を避けていては解決できないこと、新たな価値を創造するためには対立関係にしっかりと向き合って考えなければならないこと、意見の対立は互いの関係をよりよくしたり、新たな価値を生み出したりするチャンスであるということに気づくように、何がピエロを変容させたのかについて考えるための十分な時間をとるようにしました。

ポイント❸ 導入と終末で、教材を土台として考えたことを自分との関わりで考えさせる。

終末の振り返りでは「人と意見が対立したとき、どのようなことを大切にしていきたいか。対立はプラスのイメージか、マイナスのイメージか。」についてまとめました。

振り返りで子どもたちは、
・人を認めることやもっと他人のことを深く考えることが大切だと分かりました。もし、対立したとしても、もっと素晴らしいものをつくれたり考えたりできるからです。
・人は対立したとしても、相手のことを知り、仲を深めていけると思いました。
・はじめ自分は対立することはマイナスだと思っていました。でも、その人を認めることで、分かり合えるようになると知って、プラスのイメージがわくようになりました。
・対立関係になっても、相手の気持ちを考え、自分の気持ちを整理し、考え直すことを大切にしていきたいです。
とまとめていました。

集団生活では、意見の対立は避けて通れないものです。マイナスに捉えられがちな対立と、教材の中で向き合うことで、よりよく生きることについて考える授業になったと思います。

中学校
― 実践1 ―

教員が道徳的価値と真剣に向き合う
～「二通の手紙」の授業実践～

北海道標茶町立標茶中学校
教諭
岩渕 哲（いわぶち さとる）

1 道徳的価値を理解することの重要性

私が道徳科の指導を始めた頃は、「授業に奥行きが出ない、うわべだけの授業になってしまっている。」というような悩みをずっと抱えていました。「どうして生徒は真剣に考えてくれないのか？」その自問に対する答えはとても単純なことでした。「生徒には考えようと言っているのに、自分自身は道徳的価値に真剣に向き合えていない。」ということです。思い返すと私は、授業をスムーズに進めたい、観念的に理解させたいという、いわゆる「上手な授業」を目指していたのです。

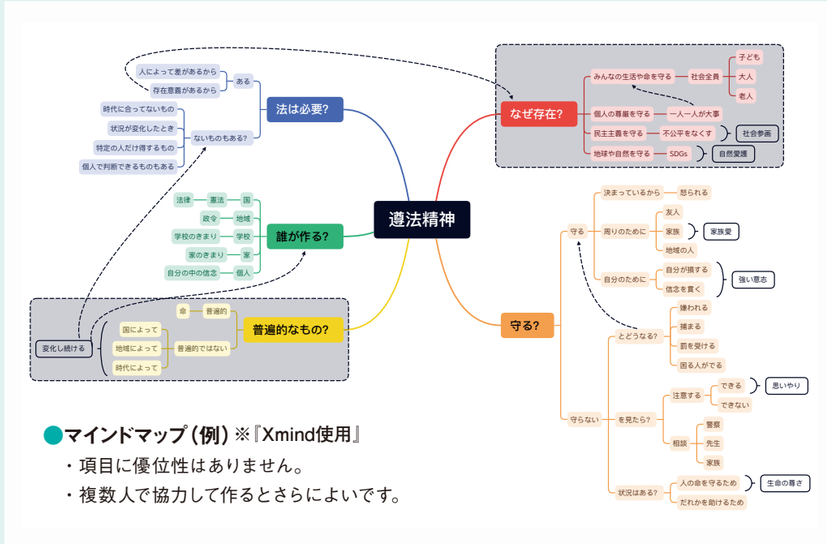
道徳的価値はそれぞれが単体で存在しているのではなく、一つ一つに深みや広がりがあり、それぞれがつながっており、22項目には収まりきらないものです。無限に広がる道徳的価値について、学習指導要領を土台としつつ自分自身でも捉え直すことは、一見大変で遠回りのようにも感じます。しかし、これが道徳科の授業づくりの根幹であることに気づきました。それ以来、私は授業づくりをする前に、「扱う道徳的価値について深める、広げる、つなげる。」ということを欠かさず行っています。

2 「マインドマップ」の作成と授業テーマ設定

時間をかけず、シンプルに誰でもできる方法を模索した結果、現在は「マインドマップ」を活用して道徳的価値についての理解に取り組んでいます。

①扱う内容項目を中心に置き、関連するキーワードをつなげる（難しく考えず、思いついたキーワードを記入する）。
②分類したり統合したりすることで整理する（関連内容項目も意識する）。
③これらをもとに教材を読み、生徒の実態を踏まえ授業のテーマを設定する（授業のテーマが明確になり、**授業の太い背骨**が完成する）。

【「マインドマップ」から設定したテーマ】
法やきまりは作られたものであり変化もある。
⇩しかし、**さまざまな想いや願いが込められている。**



●**マインドマップ（例）**※『Xmind使用』
・項目に優位性はありません。
・複数人で協力して作るとさらによいです。

●**主題名**：法やきまりに込められた想い
●**教材名**：「二通の手紙」
（「新訂新しい道徳３」東京書籍）
●**内容項目**：C-(10)　遵法精神、公徳心
●**ねらい**：きまりを守ることと姉弟を入園させてあげることで葛藤する元さんの姿や、自分ならどのようなきまりを作るのかということを考える活動を通して、一人一人の住みよい日常生活の実現のために、法やきまりの存在意義やよりよい在り方について考えようとする道徳的心情を養う。

学習活動　予想される生徒の反応（・）

導入
1. **朝読書の時間を利用して教材を読む。**
※展開での所要時間を考慮して。
2. **今日の授業テーマが「法やきまりに込められた想い」だということを理解する。**
3. **教材の概要を確認する。**

展開
4. **幼い姉弟を入園させた元さんの行動に賛成か反対かを考える。【一面の確立】**
5. **両方の立場の意見を踏まえ、両方の考えを満たすためにはどのようなきまりを作ればよいかを考える。【多面への発展】**
6. **法やきまりはどのようなことを考えて作られているのかを考える。【多角的な見方】**

終末
7. **授業を通して法やきまりについて考えたことや自分の生活に関連して思ったことなどを感想として記入する。【自分自身との関わり】**
・きまりはいろいろなことを考えて作られているのだなと思った。
・きまりは時には変えなければならない状況だってあるのではないかと思った。
・学校のルールにも意味があるのかな。
・ある程度のきまりが無いとみんなが安心して過ごせないのではないかと思った。

授業づくりの流れ

① 中心場面の設定

マインドマップ作成の③で授業のテーマが設定できれば、あとは発問をどのように設定するかです。生徒に法やきまりに込められた想いや願いを考えてほしいのでシンプルに発問します。多面的に考えることができるよう、広すぎず狭すぎない発問を意識しています。中心場面がねらいと直結します。

② その他の活動の肉付け

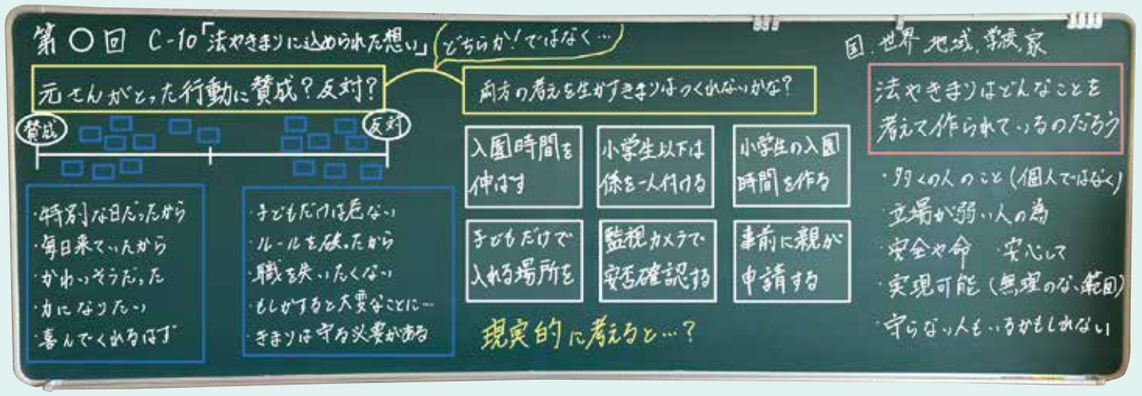
中心場面に向かうために必要な活動を肉付けします。関連する内容項目を意識しながら、授業のテーマから大きくずれないよう設定していきます。

1. 実感を伴いながら考えてほしいので自分できまりを作る活動を設定
2. マインドマップで関連する内容項目と想定した「思いやり」や「家族愛」も内包させながら授業のテーマについて考えるために、元さんの行動への賛否を考える場面を設定
3. 全体のバランスを考慮し、導入はテーマ発表に留める
4. 終末場面に自分自身との関わりについて視点を持たせて感想を記入。時間配分や発問の量を考慮しながら全体を形作る

③ 授業シミュレーションと授業中の役割

授業づくりの際は、常に生徒の顔を思い浮かべながら「どれだけテーマに沿って自由に考えられるかな。」とシミュレーションすることを意識しています。**授業前はクリエーター**として、生徒がじっくりと考えることができる舞台づくりをしている感覚です。

マインドマップを作成することで、生徒の一見関係ないような発言でもほかとのつながりを意識できたり、大きく授業の流れがずれることがなくなったりします。授業者の意識の網目が細かくなるということです。**授業中はファシリテーター**として、話し合いがスムーズに進むために、自分の意見は抑えながら、意見を引き出したり論点を整理したりする役割に徹しています。



中学校
― 実践2 ―

「家族愛」に関する教材の扱いの難しさと大切さ
～「一冊のノート」の授業実践～

高知県高知市立南海中学校
教諭
井上（いのうえ） 美智子（みちこ）

1 実践の概要

決して得意とはいえませんが、他教科の授業とは違って、〝生徒たちから教えられることが多い〟と感じるため、私は「道徳科」の授業が好きです。そして、道徳教育推進教師の役割として一番大切だと思ったのは「みんなが同じ方向を向くことを目指す」ということでした。

前任校（高知県高知市立一宮中学校）は「全日本中学校道徳教育研究大会高知大会」を開催する予定でした。そこでまずは「道徳科の授業のスタイル」を確立することから始めました。道徳を研究されている先生がたに何度もご来校いただき、道徳科の授業におけるポイントをたくさん教えていただくことで完成させることができました。どの教材であっても、まずは内容をつかみ、内容項目へと迫るために、「生徒の言葉」で授業を進め、つなげて深め、最後は教材から離れて自分自身のこととして考えさせる……その流れでいけば生徒たちの心に残る授業となるはずだということを感じています。

2 「家族愛」を扱う教材

「家族愛」を扱う教材はとても難しいです。生徒一人一人育ってきた環境が違い過ぎて、本音を言うことができるのか……と思ってしまうからです。特に現在、祖父母と生活をしている生徒は全体の一割にも満たない状況の中で、この教材の「僕」の気持ちにどれほど迫れるのか……と考えてしまいます。しかし、前任校でこの教材で授業を行ったとき、離れて暮らす祖父母への思いを募らせたり、今一緒に暮らす家族への思いを自分の言葉で語ったりする生徒もいて、「家族の大切さ」についてはみんなしっかりと分かっていることを感じました。

一学期、本校での道徳科の授業を各クラス見せてもらっている中で、あるクラスで「ごめんね、おばあちゃん」の教材で授業を行っており、涙している生徒に出会いました。自分の家族のことを思い、つらくなった涙かと思って授業後、担任に聞いてみると、つらい涙ではなく、「感謝の涙」であったことが分かりました。その生徒はひとり親家庭であり、毎日自分のために食事を作ってくれている親に感謝している、とのことでした。「自分のこと」として捉えることができている授業構成、そして涙を流すことのできる学級の雰囲気の素晴らしさに感動しました。

3 おわりに

本校にも家庭的に厳しい状況に置かれている生徒はいます。しかし、何とか「負の連鎖」を断ち切り、自分自身が「よい家族」を作っていく主役となっていくんだという思いをしっかりと持っていってほしいなと思っています。これからも「家族愛」をテーマとした教材を扱うときには、「今」の家族への思いだけでなく、「これから」の家族の中での自分の役割を考えさせる発問を考え、取り組んでいきたいと思います。

●**主題名**：父母、祖父母を敬愛し家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活 を築く
●**教材名**：「一冊のノート」
●**内容項目**：C-(14)　家族愛、家庭生活の充実
●**ねらい**：かけがえのない家族の存在に気づき、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする心情を育てる。

学習活動	主な発問（●） 予想される生徒の反応（・）
導入	● **家族に対して「日頃思っていること」はどんなことですか。** ・分かっていることをいちいち言われるので腹が立つこともあるが、大切な存在である。 ・やさしくしてくれてうれしい。
展開	**教材を読む。（範読後、簡単に内容を確認する）** **発問1** ● **ノートを読むまでの「僕」は祖母に対してどのような気持ちをもっていたのだろう。** ・いろんなことが分からなくなったり、忘れたりして困る。 ・昔はこんなことなかったのに。 **補助発問** ● **「僕」が黙って祖母と並んで草取りを始めたきっかけは何だろう。** ・おばあちゃんの自分たちに対する気持ちを知ったから。 ・ノートを見て、いてもたってもいられなくなったから。（祖母のことを理解しようとしていなかった自分に対しての思いもあることに気づかせる。） **発問２**（中心発問） ● **「僕」は黙って祖母と並んで草を取っている時、どんなことを考えていたのだろう。** ・こんなにも僕たちのことを思っていてくれたんだね。ありがとう。 ・おばあちゃんの思いに気づかず、自分勝手なことを言ったりしていたね。ごめんなさい。 ・おばあちゃんもつらかったんだね。 ・これからは僕がおばあちゃんのことを助けていくよ。 ・僕にできることがあったら何でも言ってね。 ・おばあちゃんも安らげる家族にしていくよ。 **補助発問** ● **なぜ「黙って」「並んで」草を取っていたのだろう。** ・いろいろな思いが募ってうまく言葉にできそうになかったから。 ・おばあちゃんの気持ちに寄り添いたかったから。 ・自分も泣きそうになっていることを知られたくなかったから。 ・老いていくおばあちゃんの近くで過ごして行こうと思ったから。
終末	● **家族とともによりよく生きていきたいですね。そのために自分自身がこれから家族に対してどのように接していこうと思うかを書いてみよう。（支えられるだけでなく、支える立場になっていかなければならないことに気づかせる。）**

ポイント1　導入ではあまり深入りはせず、どちらかというと思春期特有の「家族に対する不満」を出させてもいいと思います。

ポイント2　教材の内容は、①主人公（必要であればほかの登場人物）②できごと③どこで主人公の気持ちが動いたか（ない場合もあります）を簡単に押さえます。

ポイント3　発問はできるだけ少なく、20分以内で中心発問までいけるようにして、中心発問でじっくりと考える時間を取れるようにします。

中心発問では次のキーワードを使って迫っていきます。

●「深める」ためのキーワード
- 「それ、どういうこと？」
- 「もう少し説明してくれる？」
- 「どうしてそう思うの？」
- 「～についてどう思う？」
- 「それってできる？」
- 「なぜできない？」
- 「もう少し具体的に言える？」
- 「ちょっと隣の人と話してみて？」

●「つなぐ」ためのキーワード
- 「さっきの○○さんの意見、どう思う？」
- 「○○さんが言いたいこと、分かる？」
- 「誰かもう1回説明してくれる？」
- 「○○さんの意見をもう少し分かりやすく言える人？」
- 「○○さんの意見と似た考えの人？（自分の言葉で言ってみて）」
- 「○○さんの意見とは違う人？（どんな点で？）」

●「生徒がワクワクする」キーワード
- 「なるほどー！」「よく考えたね！」「いい意見だね！」
- 「そうだねー！」「さすが！」「○○さん、すごいと思わない？」
- 「それは先生も気づかなかった！」「いいねえ！」
- 「いいこと言うねえ！」

ポイント4　「ねらい」に迫る内容が出てきたらＯＫです。生徒の意見を「こういう意味だよね」と教師が補足する説明はしません。教材から離れず、「ねらい」に迫る内容が出てこなければ、「ねらい」に迫る発問を足します。

ポイント5　振り返りは7～ 8分（できれば10分）、時間を十分にとり、共有できるようにします。「家族」に関する内容は発表しづらいかもしれませんが、それができるような、普段からの学級づくりが大切だと思います。